

「社会科の授業中における、評価の観点について」

足利市立毛野中学校 赤羽 和夫

1 はじめに

本校は、本年度栃木県中学校産業教育振興会足利支部から、進路指導の研究を委嘱され、進路指導における「観察指導をとおしての自己理解の深化」という主題のもとに、研究を進めてきた。

学校生活において観察の場はいくつもあるが、その中心は何といても各教科の時間だと思う。そこで、進路指導との関連を考慮して、授業の中における観察項目を、いくつか設定して研究を進めてみた。しかし、社会科には社会科独自のねらいがあるので、進路指導に役立つ資料提供だけに結びつく観察項目を考えていたのでは、どうもすっきりしないことに気づいた。

そんなところから、まず「社会科としての評価」という広い立場をふまえて、その中から進路指導に結びつく資料を、進路指導にいかしてもらおうと考えた。しかも、従来ややもすると、ペーパーテストだけによつて評価をしていた面が多分があるので、この機会に大いに研究してみようと考えたわけである。

そこで、「授業中における評価の観点」ということで、社会科の授業中における「評価」に焦点をあわせてみた。

2 観察の実際

(1) 観察項目の設定

「社会科における評価」としてどんなものがあるか。中学校社会指導書を見ると、まず社会科の目標として次の項目が述べられている。第1に、自他の人格や個性を尊重することが、社会生活の基本であることについての理解をいっそう深め、また民主主義の諸原則を理解させ、これを日常の生活に正しくいかしていく態度や能力を養う。第2として、人間生活と自然との関係、地域相互の関係を考えさせ、人々の生活には地域によって特色があることや、その底には共通な人間性が流れていることを理解させ、広い視野に立って、郷土や国土に対する愛情を育てる。第3として、われわれの社会生活は長い歴史的経過をたどって今日に及んでいることを理解させ、歴史の発展における個人や集団の役割を考えさせ、よい伝統の継承や社会生活の進歩に対する責任感を養う。第4として、家族、村落、都市、国家その他の社会集団の機能や、それらにおける人間の相互関係、ならびにわが国の政治・経済の機構や機能を理解させるとともに、わが国が当面している諸問題に着目させ、社会生活に適応し、さらにこれを改善していこうとする積極的な態度や能力を養う。そして第5に、世界におけるわが国の立場を正しく理解させ、国民としての自覚を高め、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする態度を養う。以上の5つの項目は、相互に密接な関連をもっており、全体として社会科の目標をなすものであろう。そしてこれらの目標は、各分野の内容の中でいっそう具体化されているわけである。次に評価の対象について見ると「知識・理解・能力・技能・態度」というように分類されている。いっほう、指導要録の社会科の観点を見ると「社会への関心・考える力・知識・理解・技能・正しい判断」という項目があがっている。

それでは「社会科における評価の観点」として何を中心にまとめたらよいか。これは、中学校社会指導書にある評価を、指導要録に具体的に示したものであろうから、指導要録にある項目を中心にまとめることにした。

そこで「社会科の授業中における評価の観点」として、指導要録に出ている項目を、さらに細かく分け次のようにまとめてみた。

評価の観点	観 察 項 目	番 号
ア 社会への関心	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時事問題に関心があるか ○ 資料をもってくるか ○ 資料を見つけるのが早い 	① ② ③
イ 考える力(思考力)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読むことができるか ○ 資料と資料を比較して考えることができるか ○ 他の資料と関連づけて考えることができるか ○ 資料から因果関係をつかむことができるか ○ 資料から発展的に考えることができるか 	① ② ③ ④ ⑤
ウ 知識・理解		
(ア) 知識	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発言の内容がまとを得ているか ○ 既習事項をつかんでいるか 	① ②
(イ) 理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎事項をつかんでいるか ○ 教科書の大切な所にサイドラインが引いてあるか 	③ ④
エ 技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 略図や図表などを描くのがうまいか ○ ノートをくふうしているか 	① ②
オ 正しい判断(態度)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共同学習の時、自発的に話し合っているか ○ 積極的に発表しているか ○ 他人の意見を聞いているか ○ 予習や復習をやっているか ○ 宿題をやってくるか 	① ② ③ ④ ⑤

(2) 観察場面

以上のように観察項目を設定したわけであるが、それらは授業中いつ観察されるのか、次に記してみよう。

	生徒の活動例	観察項目の分類番号
ア 導入	<ul style="list-style-type: none"> 新単元に入った時に関係あるニュースについて話し合い (宿題を出した時は調べる) 本時の学習する地方の地図を描く (本時の学習概要を説明する) 	関心① 判断⑤ 技能① 判断③
イ 展開	<ul style="list-style-type: none"> (資料を見せる) ノートや黒板に作業をする 共同学習をする (巡視する) 資料を読む 意見を発表する 	関心③ 技能① 判断① 関心② 理解④ 技能② 判断④ 思考①②③④⑤ 知識①② 判断②
ウ 終末	<ul style="list-style-type: none"> 大切なところをまとめる (次時の予告をする) 	理解③

(3) 指導例 (地理分野から)

ア 単元名 「アジア」

- イ 目標
- (ア) アジアにおける産業と生活の特色を明らかにし、それらが成立した自然的、歴史的、社会的諸条件やその意義を総合的に考えさせ、偏見や先入観にとらわれないうで正しく理解しようとする態度を育てる。
 - (イ) わが国とアジア諸国の関係が、ますます密接になってきたことを理解させるとともに、アジア諸地域の生活を世界的視野にたって考えさせ、アジアおよび世界の一員としての自覚を高め協調の精神を養う。
 - (ウ) アジアの複雑な自然環境と、人々の自然への動きかけおよびその利用について理解し、わが国の果たすべき役割を正しくは握らせる。

- ウ 指導計画
- (ア) 土地と人々 (1時間)
 - (イ) 東アジアの国々 (5 ")
 - (ウ) 東南アジアの国々 (3 ")
 - (エ) 南アジアの国々 (2 ")
 - (オ) 西南アジアの国々 (2 ")
- } 。南アジアの位置と自然 (1時間)
 } 。南アジアの産業 (1 ") 本時

エ 本時の指導

(ア) 題目 「南アジアの産業」

(イ) 目標 ・南アジアの農産物の分布とその世界的地位を理解させる。

・南アジアの農業の現状とその原因をつかませ、また植民地政策のえいきょうも知らせる。

・国土の開発、工業化に努力する姿も知らせる。

(ウ) 展開計画

指導内容	学習活動	資料および留意事項	評価の観点
(本時の学習概要を説明する。)	○ 自然の特色を発表する	・前時の復習なのであまり時間をかけないようになりたい	知識②
	○ 地図を黒板に描く		技能① 判断③
(1) 農業			
農作物(食糧作物)	○ 農作物としてどんなものがあるか調べて発表する		関心③ 判断② 知識①
米(ガンジス川デルタ・海岸地方)小麦(ガンジス川上流・パンジャブ地方)とうもろこし(デカン高原)	○ 世界的地位を調べて発表する		関心③ 判断② 知識①
熱帯作物(換金作物プランテーション)	○ どこでとれるか地理ノートに作業する	・予習により作業が終わっている者については黒板に描いた略図に分布図を記入させたい(この時、巡視する)	○ 技能① (関心②) (技能④) (技能②) (判断④)
綿花(インダス川流域・デカン高原・パンジャブ地方)ジュート(ガンジス川デルタ)茶(アッサム地方・インド南・セイロン)さとりきび(ガンジス川中流)	○ 農産物の地理的条件を考え発表する(多雨地域と小雨地域でとれるもの)	「降水量の分布図と農産物の分布図」とを利用してつかませたい	○ 理解③ ○ 思考③ 判断② ○ 知識①
ゴム(セイロン)	○ 多くの生産をあげているインドでなぜ食糧が不足するのか考える	「米や小麦の生産量と人口」から考えさせたい(例えば米の	○ 思考⑤
「アッサム地方の茶摘み			

<p>・さとうきびのとり入れ</p> <p>(2) 鉱工業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地下資源 鉄鉱石・石炭・ボーキサイト・石油・マンガン ○ 工業（原料地域との結びつき） 金属工業・機械金業 繊維工業 <p>「ルールケラの鉄鉱山・ビライの製鉄所・デリイの紡績工場・パークラダム」</p> <p>(3) 総合開発計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ダモダル川のダム かんがい用水（農業の安定）発電（工業の発達） <p>（本時のまとめと次時の予告をする）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熱帯作物にはどのようなものがあるか発表する ○ イギリスの植民地政策についての説明を聞く ○ スライドを見る ○ 地下資源としてどんなものがとれるか調べて発表する ○ 工業の種類にはどんなものがあるか調べて発表する ○ 工業の種類から見てどういふことがいえるか考えて発表する（鉄鉱資源や綿花・ジュートの生産地域との一致） ○ スライドを見る ○ インドが貧困から逃れるためにはどのような方法があるか考える 	<p>生産は1966年4600万トン、人口1人あたり平均消費量年間90キログラムとして……)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応答が少ない場合は既習の東南アジアでの熱帯農業を思い出させる ・ 植民地政策については東南アジアでやっているのを簡単にしておく <p>「工業の分布図と農産物の分布図」とを利用してつかませたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食糧不足や既習の中国での自然改造から考えさせたい ・ 農業や工業への目的で計画されたことをわからせたい 	<ul style="list-style-type: none"> 判断② ○ 知識① 知識② 判断③ 関心③ 判断② 知識① 関心③ 判断② 知識① ○ 思考③ 判断② ○ 知識① ○ 思考⑤ ○ 理解③ 判断③
---	---	--	--

オ 南アジアの授業を通して観察されたもの

(イ) 社会への関心

図書室の本を利用している。

地図帳にある資料をどんどん見つける。

雑記帳やトレーシングペーパーに略図の練習をやっている。

(ロ) 考える力(思考力)

雨量の多少により農作物の生産が違うことをすぐつかんだ。

繊維工業は綿花やジユートの生産地域と一致しているということをすぐにつかんだ

(ハ) 知識・理解

農産物の分布をしっかりとつかんでいる。

教科書の大切な所にサイドラインが引いてある

熱帯作物を覚えていた

(ニ) 技能

略図がうまい

分布図がきれいである

色鉛筆を使ってわかりやすくまとめている

(ホ) 正しい判断(態度)

話し合いはいつも活発である

資料を交換しあったりして意欲的に話し合っている。

能力の低い友を応援している

発言がいつも多い

真剣に説明を聞いている

予習や復習をきちんとやっている

(4) 記録のとり方

観察されたものを、すべて文章で表現することが望ましいのですが、1時間ごとに文章で記入するとすると、とても負担が多くなり、日常の忙しさから考えても不可能であろう。従って観察項目にそれぞれ番号をつけておき「エンマ帳」にその番号だけを記入するようになっている。授業中は、いちいちチェックしてられないので、授業が終わってから記入している。その例を次に記してみよう。

生徒氏名	南アジア				西南アジア				西ヨーロッパ				付記
	関心	思考	知理	技能判断	関心	思考	知理	技能判断	関心	思考	知理	技能判断	
A			①				①				①		関心 1 時事問題 2 資料持つ 3 資料見る
B		③		①						②		②	思考 1 資料読む 2 比較思考 3 関連思考 4 因果思考 5 発表思考
C		③	③	④	①	③				③		②	知識理解 1 発言内容 2 既習事項 3 基礎事項 4 教科書
D		③	③	④								②	技能 1 描図 2 ノート
E				①		①	②	④		②			判断 1 話し合い 2 発表意欲 3 聞く態度 4 予習復習 5 宿題
F				④	①			①		②		①	
G			③				④	①		②		①	
H		②			②	②						②	
I				④			④	②				②	
J		③			②				②	③		②	
K		②		④	②		④	②				②	

(5) 記録を通しての効果

第1に、生徒のそれぞれの動きをくわしくつかむことができるようになってきたことである。例えば、略図のうまい生徒、授業中必ず活躍する生徒、既習事項をしっかりとつかんでいる生徒、ノートにくふうしている生徒、ノートをきれいに仕上げている生徒、説明を真剣に聞いている生徒など、生徒ひとりひとりの特徴が、わかってきた。

第2に、観察結果をなるべく本人に伝えて「認め、ほめ、励ましてやる」ことによって、学習態度が意欲的になってきたことである。テストの解答用紙の所に、観察したものをときどき書いてやり、直接本人に伝える。これは、すぐに生徒の反応があり、学習意欲や態度が変化し、効果

も大きいようだ。

そして第3に、指導要録や通信票へ活用できることである。ややもすると、カンで書かれがちであるが、ふだんの観察資料によって、かなり自信をもって評価ができたような気がしている。

3 今後の問題点

「授業中における評価の観点」としての観察には、いくつかの問題があるように思う。第1に、積極的な生徒の場合は、すぐに反応があり観察しやすいが、消極的な生徒の場合は、なかなか反応を示してくれず観察しにくい。第2にあげられることは、1年生は個性がそのまま出るので観察しやすいが、2・3年生は身体的、心理的発達段階のためか、こまかい所を見せないで観察しにくい。

この観察しにくい面を解決するために、例えば、1時間ごとにそれぞれの観察項目をしぼって観察する方法や、観察する生徒をあらかじめ選んでおいて、観察する方法など、いろいろあると思う。もっと大切なことは、学習に対する「学級のふんい気づくり」だと思う。もちろん、教師側の姿勢も大切であることはいうまでもない。

今後さらに研究を続け、日常の学習活動の中から、よりよい評価法を研究したいと思う。その研究方向としては、評価をするうえでの評定尺度を作ることや、教科の評価の観点から、進路指導に結びつく観点の一覧表も作ってみたいと考えている。

最後に、つたない研究実践ではありますが、諸先生方のご指導、ご批判をお願いします。

評

この実践記録において、評価観点の分析、展開過程における具体的な評価観点の設定などについて、ち密な研究作業を行ない、それに基づき実際に評価を実施してかなりの成果をあげられたことについてまず敬意を表したい。特に評価実施により個々の生徒をよく理解することができ、また評価結果を生徒に伝えることにより生徒の学習意欲や態度に変容をきたしたことなどは多いに注目してよいであろう。さらに、いくつかの問題はあるにせよ観察という評価方法を用いたことは興味のあることで、大方のご意見を伺いたいところである。なお、「授業中の評価の観点」に指導要録の学習の記録の観点をういられただことについては、指導要録の評価はいわゆる「評定」（対外証明的性格が強く、公平性、客観性が要求される）の意味が強く、学習指導における評価は「評価そのもの」（目標追求活動を調整するための情報提供）の意味が強調されるであろうという点から考えて、どのような観点を準備すべきかについて再吟味することも意味のないことではないと思われる。いずれにしてもこの立派な実践研究のうえにたってさらに研究が深められ発展されることを期待したい。